

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第6回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

(2) 地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて（公開）

3 開催日時

平成30年12月20日（木） 午後6時28分から午後8時05分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、二野 浩、保坂真由美、山田宏文

・三郷区への転入者（3名）

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・池内委員、佐藤委員、横尾委員を除く9名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：二野委員、保坂真由美委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

— 一次第3議題（1）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」 —

【山口会長】

次第3議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

まず、三郷区に転入された方との座談会を行う。

前回会議のあと、各委員から最近こちらに転入された方に声かけをして、3名の方が出席している。

一人ずつ自己紹介をお願いします。

【転入者1】

6年前に来た。以前住んでいた東城町には40年間住んでいた。市街地の町内会で住みよさもあったが、娘夫婦に子どもができ、「一緒に住みたいがどうか」と話があり、話し合った結果、一緒に住もうとなった。そのままそこに住む予定だったが、手狭であり、少し広めのところはないかと探したところ、知り合いから紹介を受けた。2世帯で住むには立地、環境、その他生活に諸々の面で大変よい印象を持ち、相談の結果住むことになり、現在に至っている。

【転入者2】

10年前に来た。その時家を探していて、大工さんに紹介され、お互いの家から近く会社も近いため、ここに決め、今に至っている。

【転入者3】

こちらに来たのは7年前くらい。それまでは妙高高原におり、生まれも育ちも妙高高原。老後、少しでも雪の少ないところということで、こちらに引っ越した。娘が近くに嫁いでいることもある。

【山口会長】

地域協議会委員を紹介。

案内に記載したとおり、「三郷区に転入された動機」、「三郷区に住んでいて良かった点」、「三郷区に住んでいて悪かった点」について聞き、今後の審議に役立てていきたいと思う。

三郷区に転入された動機について伺いたい。

【転入者3】

今まではすごい豪雪のところだったため、年を取ってからはとても無理だと思い、こちらに引っ越してきた。ここも降ることは降るが、この程度ならまだ許せる程度かと。

【転入者2】

10年前はちょうど結婚した時で、家を探していたら紹介された。会社にもお互いの家も近かったため、ここにしよう。

【転入者1】

娘夫婦と一緒に住みたいという理由から決断した。今はネットで情報豊かになっているため、上越市、妙高市それぞれで探し、不動産屋を介しながら見学に行ったりした。妙高市の方が税金関係は少し安めということもあり、少し向こうに気持ちが傾いた。それなりの物件もあったが、最終的には住環境。私は何十年も市街地にいたため、田舎の集落単位と呼ばれるような環境での生活になじめるのか心配があった。だがそれも一つの勉強という気持ちで自分を納得させ、若い者達と勉強しに行ってみようと、現在住んでいる町内に決めた。決めた後で、知り合いから「その町内は少し難しい。」と、冗談半分だと思うが話を聞き、まずいという気持ちもあったが、今は非常に満足している。

【山口会長】

良かった点、悪かった点について伺いたい。

【転入者1】

良かった点は、家族の若い者からも聞いたが、第一に現在住んでいる町内の団地でないところに非常に魅力を感じている。以前住んでいた町内は400世帯近い町内会で、元から住んでいる方もいれば、途中から入った方もあり、最近アパートが建ったりして、様々な人格を持った方が入り乱れて形成されている町内会だった。そのため、知らない人も多く、賛否両論いっぱいあり、気を使う部分があったが、

こちらに来てからはそういったことは一切ない。現在住んでいる町内は世帯数が70くらい。町内会は100世帯前後がまとまり的にも、雰囲気的にも団結してよいと強く感じた。

【山口会長】

要は環境がよいということか。

【転入者1】

そう。団地でないという部分で住みよさを感じている。ただ少し気になるのが、孫が小学1年生と保育園だが、子どもの数が少ない。これは、少子高齢化でどうしようもない、どこの町内も抱えている問題だと思うが、非常に子どもの数が少なく、友達同士で遊び切磋琢磨するような機会がなかなか設けられない。以前住んでいた町内では十分可能だったが、子育て環境は少し物足りない。悪いというより物足りない、若い者の中では少し感じているようだ。子ども達同士の行き来は町内を越えてしているが、そうすると親がついて行かないといけない。隣あるいは3、4町内離れた友達のところ遊びに行きたいと言っても、なかなか本人だけでは行かせられず、結局遊べる日が土日に限られてしまい、不便さがある。しかし住環境は非常によいため、体験学習的なものを子ども達にさせるには非常に恵まれているとつくづく感じている。キュウリがどのように育て実を結ぶのかを実体験としてできるため、小さい子ども達にとってはよい体験学習になり、学校に行ってそのような話が子ども達同士でできるようだ。それが市街地の子ども達とは違い、成長期にはよいのではないかと感じている。

【山口会長】

「このようなところを直した方が住みよいのではないか」ということはあるか。

【転入者1】

特にない。逆に教えてもらえるところがたくさんある。皆さん気さくで、様々なことを教えてと言っても、喜んで教えてもらえるため非常にありがたい。そういった面を強く感じる6年間だった。

【転入者2】

良かった点は、買い物に行くにもどこでも近い。子ども達も一緒に近所で遊んでいるため、もう少し広い遊べる場所があればよいと思う。今まで実家暮らしだっ

たため、除雪はほとんどしたことがなかったが、今は冬になると朝の5時頃からピーターで除雪しなければいけないため、それは少し辛い。

【山口会長】

雪はどこにでもあるのだろうが。

【転入者2】

実家はもっとある。

【転入者3】

私が今住んでいる町内は宅地造成されたところであるため、住宅が区画整理されている。今まで住んでいたところが自然の中で、傾斜地もあるようなところだったため、どこからどこまでが自分の土地かはっきり分からないような感じで住んでいたが、現在住んでいる町内は整理されているためよいかと思う。また、これから年を取っていくが、スーパーや病院などいろいろなところが近いため、これから生活するにはよいのではないかと思っている。自然環境も場所によってはこちらの方がよい。山というのは近くから見るとはなく遠くから見るのがよい。河川敷などによく散歩に行っているが、そこから見る妙高連山は素晴らしい。近くにいた時はそんなに感じなかったが、ここに来てそう感じた。

【山口会長】

委員から聞きことはあるか。

【竹内副会長】

三郷地区は農村地域が中心のエリア。その辺について違和感はあるか。

【転入者1】

三郷区は、農地中心の生産年齢人口が大半。そういった面から感じるのは、皆さん大変なのではないかと。要するに、生産者の年齢が高くなり、経営される方は少なくなっている。現在住んでいる町内もそう。将来的にどのような機能があれば人口減に歯止めをかけ活性化が生まれるのか。漠然とだが考えている。

田畑を耕している方の姿を見て、「えさらい」などにどうしても出ないといけないのか、困ったなと思った。しかし、そこは非農家の皆さんの考えも取り入れて、「無理して出なくてもよい、出た方に日当を払っているためそんなにプレッシャーを感じなくてもよい。」と言われた。農業をしている方と話す機会はあまりない

が、違和感はあまりない。私達非農家に対して非常に深く理解してもらっているため、ありがたいと思っている。昔であれば、実力者がいて村組織みたいな傾向があり、その名残だろうか、「その町内は少し難しい。」と最初に脅かされたが、全くそんなことは感じない。我々と同じような感覚、意識で接してもらっている。私としては、農家経営者の方に対しては商売をやっている家だという認識、農家なのだという意識はあまりない。

【山口会長】

私の町内も非常に改善している。昔は確かにあった記憶がある。組単位で何人出すというのがあり、組長になるとなかなか大変だったが、今はもう。町内会長等の考えも変わってきている。

【伊藤委員】

私も子どもがいる。子どもを育てる場所にはとてもよいと思うが、どうしても子どもの人数が少ない。もっとこうしたら子どもにとって住みよい場所になるのではないかというヒントがあれば。今までの住んでいた場所は子どものためにこういったことをしていた、ということがあれば教えてもらいたい。

【転入者3】

私の住んでいた集落の中に太鼓が好きな人がおり、子ども太鼓を真剣にやっていた。うちの子どももそれが好きで、学校よりそちらの方がといった感じで、太鼓のクラブに入っていた。集落の人が先生になってやっていて、子どもを通じて各家庭の繋がりもできていた。また、雪の多いところだったため、スキーも好きだった。勉強より体を動かす、スポーツの方を重視して、集落を挙げてやっていた。

【尾崎委員】

もし友達や知り合いに家を探していると言われ、自宅の隣が空いていたら勧められるか。

【転入者2】

知り合いがいた方がよいので。

【尾崎委員】

勧められるということは、先ほど住みよいと話があったが、そんなに悪い場所ではないと。

【転入者2】

そうである。

【転入者1】

今は車社会であり、郊外へ居住地を移したところで支障はない。今の若い方の意識としても、田舎だからという不便さは感じないと思う。私自身もそういった物差しでものを見るのではなく、家族が住みよい住環境を一番の問題にしなければいけないと思う。もし知り合いに転入したい方がいれば、大賛成で勧めたいと思う。本当に住みよい。ただ、少子化、人口減少という問題を考えると、回復するのはまず期待できない。減少するわけだが、その減少を止めることはできるのではないかと思う。それには何か発信しなければならない。人を取り込む形で歯止めをかける場合の課題はものすごくたくさんあり、大変なことだと思うが、地道にしていけば、個人個人の繋がりがあるため、そこから外へ発信していけば、「行ってみたいな」、「ちょっと感じてみたい」という人は出てくると思う。そのような形で呼び込むこともできるのではないかと思う。高齢化が進み一人世帯や老人世帯がこれからも増えていくということは少し置いておき、離れていってしまう方、若い人達に対して。高校を卒業したら、大学に行くにしろ就職するにしろ、ここから離れてしまうのが大半。いろいろテーマを出してその辺を聞き取り、それを子ども達に植え付けていく。そこがこれからの課題なるのではないかと思う。

【二野委員】

皆さん新築で建てたのか、それとも中古物件を購入したのか。

【転入者1】

私の場合は急遽だったので中古である。たまたま知り合いが紹介してくれた。

【転入者2】

私は建ててあった新古住宅。誰かが建ててやめてしまった。家に大工が来ていて、その人に聞いたらそういったものがあるということで。ちょうど妻と結婚したが、実家は嫌だというので。

【竹内副会長】

出身は牧だったか。

【転入者2】

長男だが、家を出てしまった。

【山口会長】

三郷に来てもらってありがたいが。

【転入者3】

新築。土地は早い時期に購入した。息子が東京の学校に行っており、まず妙高高原には帰って来ないだろう、息子が就職するなら上越の方がよいだろうと思い、土地だけは先に求めた。そして家を建てたのが7年くらい前。息子は完全に東京の方に住んでしまったため、これはもう絶対に駄目だろうということで。ちょうど娘も近くだったため、なおよかった。

【二野委員】

いろいろなところを比較したと思うが、三郷区の土地や中古物件は、比較的安かったか。

【転入者1】

安くない。市街地と変わらない。

【転入者3】

私のところは、他から比べたら安い方ではないか。

【保坂副会長】

今まで話を聞いていて、嬉しい意見をたくさんもらった。皆さんいろいろ情報を収集し、自分が住みたい場所や、家庭を形成するのにこの場所がよいと合致されたのかと思うが、本当に心配なのは子どもの数。辰尾新田はたまたま子どもがたくさんいるため、とてもよい場所かと。

もう一つ、3人に先ほど話をしてもらったが、やはり地域に溶け込もうとしているその姿により、周りの人が「一緒にやっぺいこう。」という気持ちになっていき、今があるのかなと感じた。

【山口会長】

三郷区は皆さんが以前住んでいたところよりは住環境がよい、ということでよいか。

【転入者3】

ただ、私が少し不安なのは、現在住んでいる町内には公共下水道がまだ少ない。

妙高高原では平成元年頃から入っていた。これから年を取ってくため、いきなり引き込みにお金がかかるとなるのが心配。妙高高原では一軒当たりかなりのお金がかかったため、そのようなお金は老後の年金生活の中で出せない。

【竹内副会長】

そこの町内は、合併処理槽で口径マスが付いている。それを道路の下に通し、下（しも）に流している。道路側溝の前に流していないため、後々下水道計画が整ってくれば、そのまま生かしながら終末処理場に持って行くことが可能。その辺は市の方と調整すれば変わっていくかと。三郷区の終末処理場が今池にあり、そこへ配管する計画にはできるのではないか。

【転入者3】

年を取ってきて、あと何年も住めないのにお金をかけられない。

【山口会長】

妙高高原は入っているのか。

【転入者3】

私の集落は入っていた。妙高高原でも一番早かった。だが個人負担はすごかった。普通のところでだいたい300万円くらい払った。

【山口会長】

うちはそんなにかからなかった。ある程度借り入れはしたが。

まとめると、他の地域より住環境がよいとのこと。そういったことを今後の審議に生かしていきたいと思う。

以上で、座談会を終了する。

(転入者退席)

【山口会長】

高士区地域協議会との意見交換会について協議する。

先方と調整し、実施案を資料No.1のとおりとした。資料について事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.1により説明。

開催日は1月29日（火）に決定。

【山口会長】

実施案について質問、意見を求めるがなし。

実施案のとおり意見交換会を実施することについて諮り、委員全員の了承を得る。

グループ討議のグループ分けを本日決めたい。グループにより意見交換のテーマが違うため、どちらのテーマのグループがよいか、各委員の希望をもとに決めたい。なお、私と竹内副会長は、別々の班の進行役と書記・発表役に入る予定。

グループ分けの希望について、委員に意見を求める。

【尾崎委員】

事前質問の②、③のうち、③「転入者を増やすために必要なこと」は色々議論してきたが、②「地域協議会で検討した内容を実行に移す方法」は意味が広すぎて、具体的にどうなのかと。まず、地域協議会で検討した内容とは、例えば何なのか。それを聞かないと、これで討議しろと言われても、何をどう討議したらよいか分からない。そこを聞きたい。

【山口会長】

事務局、資料はあるか。

【小林主任】

進め方については今後検討して詰めていく予定だが、正副会長と事前協議した時にも同じ話が出て、例えば、それぞれの区で現在検討して意見が出たことを例にあげ、高士区では空き家を検討しているため、それについてどのようなものがあるか話してもらおう。三郷区では以前の会議の中で、例えば魅力発信という意見が出たため、それについて実行に移すにはどうしたらよいか考える、というのが一つの案としてある。

【山口会長】

正副会長の事前協議の時に、内容が広すぎて絞らなければいけないのではないかと話が出て、いろいろと検討したが、今日の座談会の内容も含めて、私達が話し合ってきた内容で話せばよいのではないか。あるいは、高士区の皆さんがしていることを参考にして、それと重複してもよいのではないか、という話をした。

【尾崎委員】

お互い同じテーマでないと意見交換会にならないのでは。お互いに思うところを

言い合っても意見交換会にならないと思った。③のようなテーマなら、空き家対策等、いろいろなものも含まれてくるが、より具体的にしてもらいたい。でないと、どちらのテーマがよいか分からない。

【山口会長】

尾崎委員のとおり、私も難しいと感じている。Aグループの人は実行に移す方法となるといういろいろあるため、それをまずざっくりばらんに話してもらえばよいと思う。皆Bグループではこれも困る。

【尾崎委員】

魅力発信について、三郷区では広報誌を考えていますと言い、高士区はそのようなことを考えていないと言われたら、そこで終わってしまう。

【山口会長】

それも一つの考え方かと思う。

【尾崎委員】

個人的な意見だが、①「空き家の活用」は高士区で取り組んでいるとのことであるため、実際どう取り組んでいるのか、いろいろ聞くのはどうか。

【山口会長】

仮に尾崎委員がAグループに入ったら、それを掘り下げて聞いてもよいと思う。

【尾崎委員】

空き家についてはある程度進んでおり、今それは置いて②③とのこと。そこでまた空き家の話を聞いてはいけないのか。

【山口会長】

それはない。どちらの進行役になるか分からないが、私がAグループの司会者になれば話を振るかもしれない。

【佐藤センター長】

①「空き家の活用」については、細かく聞きたいことがあればグループ討議の際に委員間で話をする予定である。全体会で質問を受けた方がよいか。

【山口会長】

グループに分かれた後に掘り下げて聞いても差し支えないのか。

【佐藤センター長】

そうである。

全員揃ったところでの質問がよければ、全体会で質疑応答の時間を設けるが。

【山口会長】

それでよいか。

【尾崎委員】

何のための意見交換か、よく分からない。

【保坂副会長】

収集がつかないということだろう。

【尾崎委員】

収集がつかない。言いたいことを言って終わってしまうのでは意見交換会ではない。テーマを決め、先進地の意見を聞く。または三郷区は高士区と違うことを考え、よいところを向こうに伝えるのならよい。あまりにもアバウトすぎて、ただすればよいという話。

【山口会長】

そうではない。

【尾崎委員】

きちんとした達成目的があってするもの。「やってよかった。」、「こういった意見もあってよかった。」とするには、もう一つ具体的なテーマがあってもよいと思う。

【山口会長】

事務局、これは高士区とは詰めてあるのか。

【小林主任】

高士区では、12月18日に会議が開かれ、実施案と同じ内容で開くことで承認されている。

【山口会長】

このテーマで向こうは了解している。内容について意見が出たかどうか分からないが。尾崎委員の意見はもつともだが、どうか。みんなBに行くわけにはいかない。欠席した3名は正副会長で相談して決めたいと思っているが。それとも正副会長で指名するか。

【二野委員】

AとBと分けてしまうためおかしくなるのではないか。本当のテーマがぼやけてしまう。「両区の状況を情報交換しながら、テーマについて解決策を検討する」。となっている。わざわざ二つに分けて、片方は「地域協議会で検討した内容を実行に移す方法」、片方は「転入者を増やすために必要なこと」。バランスが取れないような気がする。高士区がどこまで話が進んでいるか、我々は全然分からない。

【山口会長】

それはグループに分かれて意見交換してもよいかと思っている。24名全員が来るか分からないが、24名がテーマなく話をすると収集がつかない面も出てくる。そのため小グループに分ける。何もなく話をするのはおかしいため、当初は空き家と思っていたが、高士の方ですでに詰めているため、この形でどうかと話した。

【竹内副会長】

空き家の活用自身も、高士区の地域協議会で検討した内容の一つだろう。

掘り下げた話を協議の中でしてもよいのではないか。

【山口会長】

私もそう思っていたが、尾崎委員と二野委員の意見ももつとも。事前協議でもだいたい詰めたが、皆さんの意見を聞いてみよう。

「Aは嫌だからB」という方はいるか。

【尾崎委員】

そのようなことなら出来レースで、「内容はこうなっているため勝手に参加しなさい。」と、私にはそう聞こえる。会長が決めてほしい。

【山口会長】

それではいけないと思った。

【尾崎委員】

私はどちらでもよい。会長が決めてもらって結構。

【加藤委員】

これはもう高士の方に伝わっているのか。

【山口会長】

そう。そのため、尾崎委員の言うような話になっている。

【尾崎委員】

もう変えようがない。

【伊藤委員】

②の検討した内容は、高士区は空き家だが、三郷区はそういったものがないため、空き家と魅力発信を議題として考え、グループ討議に臨めばよいと思う。ある程度協議の内容を絞った方がよいと思う。あまり大きく考えず、三郷はこれとこれできごと。

【山口会長】

事務局間で詰めて、12月18日の高士区地域協議会では案のとおりすることになった。全体会のあとグループ討議の時に皆さんが先ほど言ったように個人的に聞いてもよいかなど。テーマを変えることは、高士区は可能かどうか聞いていないが、高士区ではすでに承認されている。高士区もいろいろな意見が出たと思うが。

【伊藤委員】

三郷区でもそういった問題があるため、三郷区からの質問として向こうの意見を聞きたい。そのため向こうがどうというのとは関係なく、こちらはこちらで質問というか、協議してもらいたいという感じでいけばよいと思う。

【山口会長】

内部資料として持って行き、Aグループになった人はそういったことを聞けばよい。

【伊藤委員】

高士区はそういった問題があるが三郷区はこういった議題があるため、それについての意見を聞きたいという感じでよいと思う。

【山口会長】

それも一つの考え方でよいと思う。

【伊藤委員】

テーマがないと何を考えてよいか、何を質問してよいか分からない。

【佐藤センター長】

事前質問の①～③は、前回の会議で、三郷区としてこういったことをテーマにやりたいと決まったもの。三郷区から提案した形になっているため、テーマの文言を変えるのは難しいと思う。ただ、正副会長との事前協議の際にも、③については考

えやすいが、②については検討した内容をいくつか挙げないと意見交換ができないと言われた。事務局間で協議し、それぞれの地域協議会で今まで議論してきた中身から、伊藤委員の意見も参考にして、当日よりも前にテーマをいくつか決めてお知らせしたい。何をテーマにするかは、相手もあるためここでは決められない。

【山口会長】

それを踏まえてグループ分けを決めたい。私から指名することは正直したくない。

【尾崎委員】

具体的にテーマを挙げると話があった。それを聞かないうちには。

【山口会長】

聞いてから決めるか。当日、現場でもよいか。

【二野委員】

会長の方で決めたらどうか。

【伊藤委員】

当日までに質問を考えないといけないため、事前に決めてもらいたい。

【山口会長】

今決めた方がよいだらう。

【尾崎委員】

くじびきで決めてもらってもよい。

【山口会長】

では後で連絡するか。

【保坂真由美委員】

検討内容が分かった段階で知らせてもらい、その後A、Bどちらにするか希望をとる。

【伊藤委員】

それだと片方が多くて片方が少なくなってしまう。

【山口会長】

それは勘弁してほしい。6対6にしたい。

【伊藤委員】

会長に任せて、各委員にこうなったと言われた方が。

【保坂副会長】

強い希望は今のところないということを確認して、会長に一任すればよい。

【山口会長】

意見交換のグループはどちらでもよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

後日、テーマ等も含めて正副会長で相談して決め、皆さんに郵送する。

一次第3議題(2)「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」—

【山口会長】

次第3議題(2)「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」に入る。

前回会議で、来年度の審査・採択のルール等の検討にあたり、各委員に改善点があるか意見を出すよう依頼したが、意見は出されなかった。そのため、来年度の募集要項や審査・採択のルール等については、今年度と同様にしたいと思う。それでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

後ほど事務局から補足があるが、三郷区では今年度と同様に決めたが、そのことについて市から、どのような意見等があり、どのようにして決めたのか報告してほしいとのことである。私なりに考えたが、今年度と同様にしたのは、部分的には検討する内容もあるが、委員間でルール等も定着しているため、このままでよいということ。ただし、今後疑義が生じた場合は、皆さんと協議して次年度に反映したい。

皆さんには、改めて意見を聞く。

まず、事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・配布した資料「地域活動支援事業の検証検討等にもとづく見直し方法等については、地域協議会会長会議の会議資料として配布され、各委員にも配布した。
- ・市の案は、平成31年度のルール等を検討する際の参考にするよう依頼し、結果、特に意見はなく、今年度のおりとなった。
- ・市の案についてどのように考えてこのままでよいとしたかを聞きたい。

- ・市への報告は、出された意見をもとに事務局で作成し、提出したい。
- ・結果については、28区の結果を取りまとめ、後ほど公表する予定である。

【山口会長】

私は、(2)⑤の「提案団体と関わりの強い委員がその事業の審査に関わるかの判断」については今後皆さんと検討しなければいけないと感じている。ただ、これも皆さんの意見を踏まえ、各団体あるいは町内会長になる委員がいれば、提案団体も審査に関わってよいのかとなる。今は定着しているため、今後差し障りがあれば皆さんと話し合う。これは私の意見。そういったことを踏まえて、委員に意見を求める。

【尾崎委員】

提案団体と案件を審査する委員の関係性を整理ということは、同一だとあまりよくないという意味か。

【山口会長】

そう思う。

【尾崎委員】

確かにそうかと思うが、私も委員になって3年になるが、まだまだ。提案を出してくる人達は当然内容を分かっているし、町内会長も分かっているが、その他の人達は提案しようにもなかなか分からない。3年を振り返ると、同じような方々が継続的に提案している。それ以外の提案者というと、だいたい町内会長。それ以外の方々というのは、なかなか提案しづらい部分があるかと思う。確かに、提案団体と案件を審査する委員の関係性を整理するのも一理あるのかもしれないが、町内会長が委員になり、初めて町内で提案しようかということもある。それ以外の方にももっと知らせればよいのかということになるが、プレゼンテーションを10分して、いろいろ質問され、それに答えなければいけない。何を聞かれるのかと思うと、皆1歩2歩下がってしまうのかと思う。三郷区は今の方法もありだと思う。

【山口会長】

そういったことを、疑義が生じたら皆さんと意見交換して次に反映したらよいと思う。尾崎委員のとおり、私もそう思う。そういったことがあれば言ってもらいたい。市に報告する期限もある。次に会うのは、来年1月29日の意見交換会。その

後は2月になるが、それだと間に合わない。皆さんも尾崎委員のとおりだとなればそれでよいが、少し考えて文章で事務局にあげるのもありかと思う。

【保坂副会長】

理想としては委員以外の方が提案するのがベストだが、三郷は世帯数が少なく、またやろうとしている団体が少ないため、重なっても仕方ないと思う。お互いの信頼関係を築き上げていくのがよい。高田や直江津などの大きいところは重ならないように調整できるかもしれないが、三郷は。各区の状況に応じて、人としてわきまえてやればよいと思う。

【山口会長】

次年度は今年度のままとすると決めたので、市の案には変更しないと認識しているが。事務局はこれでまとめられるか。皆さんから個々に出してもらうか。

【小林主任】

後日皆さんから思うところを文章で書いて出してもらおうというのは可能。資料について分からないことがあれば、私の方で説明するが。

【山口会長】

それでどうか。

【伊藤委員】

(2) ③に「市の補助制度を優先する」とあるが、それは市の他の補助金があれば、そちらを先に使ってほしいということか。

【小林主任】

委員の審査の前に市の方で、この事業についてはこういった市の補助金があるというのを示し、審査の参考にしてもらい、地域活動支援事業の方で採択するかどうかを判断してもらおうよう、用意するような考えである。

【伊藤委員】

市の他の補助金について、採択の前に私達の方に示してもらえるとということか。

【佐藤センター長】

市の補助制度を優先する制度設計に見直す必要があるかどうかを聞かれたのか。

【伊藤委員】

市の補助制度を優先するのかと。

【佐藤センター長】

このような意見が検証結果として上がってきたため、それに対して、市としては各区で取扱いを決めてもらってよいという回答。その参考とするために、市の方では市の補助制度の資料を用意したいということ。

【二野委員】

市の補助制度は多岐に渡ってある。だが町内会長でないと、市の助成金は何があり、補助率がいくらか分からない。私は町内会長をしていたため分かるが、それは市の方から資料としてくるため、それに目を通してあるから分かるのであり、そうでない人達はほとんど分からない。今後、市の補助と重複しているのをどのように見つけるかが課題の一つでは。

【尾崎委員】

過去にも結構あった。ただ、市の補助率は100パーセントではない。地域活動支援事業は100パーセント。そのため、皆さん地域活動支援事業に提案している。今後も多分そうなるはずである。多岐にわたっていろいろな補助金があり、それを事前に委員が見て、募集をかけてかなりの件数、金額が上がってきた場合、それを見たことによって、他の補助制度があるため地域活動支援事業の方を減らす、優先順位を変えるという話になりかねないと思う。それでは過去のものか今後のもので不公平になる。全体的な意見はそうなのだろうが、そういった先入観念を与えるような情報は知らない方がよいと思う。

【二野委員】

三郷区でいち早くこの補助金を使ってやったのが、防犯灯のLED。あれは市の助成もあるが、100パーセントの助成ではない。似たものが出てくる可能性も、なきにしもあらず。

【山口会長】

持ち帰り、自分の意見を事務局へ送付して、事務局の方で他の3区も参考にしながらまとめてもらうか。このまま話をしても意見がまとまらない気がする。

【尾崎委員】

事務局では、会長が最初に話したとおりでは駄目なのか。

【山口会長】

事務局、どうか。それに枝や葉を付けるようなことは必要だが。

【佐藤係長】

今後実際にやっていく中で、変更した方がよいものがあれば次年度以降協議するということで、永久に同じ状態ではなく状況によって変えていくというのが三郷区の意見、考えということでよいか。

【山口会長】

そういうこと。3区との兼ね合いもあるだろう。

【佐藤係長】

事務局で作成し、正副会長に確認してもらおう。

【山口会長】

それでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

どうしても言いたいことがある委員は、直接事務局に言ってもらって構わない。

—次第4 事務連絡—

【山口会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・高士区地域協議会との意見交換会

1月29日（火）午後6時30分～ 高士地区公民館

三郷地区公民館に集合し、午後6時出発のバスで会場へ行く

- ・第7回地域協議会

2月25日（月）午後6時30分～ 三郷地区公民館

- ・当日配布資料

創造行政研究所ニュースレター

ウィズじょうえつからのおたより

地域活動フォーラムの資料（当日欠席委員のみ）

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。